

次期計画における目標設定等について

1. 目標年度・計画期間

平成23年5月に策定した現行計画は、平成21年度を基準年度、平成27年度を目標年度とし、平成23年度から平成27年度までの5年間を計画期間としている。

「ごみ処理基本計画策定指針」（平成25年6月、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課）においては、「一般廃棄物処理基本計画は、目標年次を概ね10年から15年先において、概ね5年ごとに改定するほか、計画策定の前提となっている諸条件に大きな変動があった場合には見直しを行うことが適当」とされている。

これらを踏まえ、また、昨今のめまぐるしい社会情勢の変化に十分に対応していく観点から、次期計画における目標年度等を次のとおり設定する。

- 基準年度を平成25年度、目標年度を平成37年度とし、平成28年度から平成37年度までの10年間を計画期間とする。
- また、平成32年度を中間目標年度に設定し、ごみ減量化等の進捗や計画に掲げる各施策の進捗、事業内容等について評価を行うとともに、必要な改定を行う。
- その他、国の政策転換や社会経済情勢の大きな変化など、計画策定の前提となっている諸条件に大きな変動があった場合には、必要に応じて見直しを行うものとする。

2. 評価項目及び目標値

(1) 計画における評価項目及び目標値

現行計画では、次のとおり3つの項目で目標値を設定している。

基準年度（H21年度）に対し、目標年度（H27年度）において、

①ごみ排出量：市民1人1日あたりのごみ排出量を306g減量

H21年度：1,286g ⇒ H27年度目標：980g
(H25年度実績：1,310g)

②リサイクル率：ごみ総排出量に対するリサイクル率を16.1%向上

H21年度：8.9% ⇒ H27年度目標：25.0%
(H25年度実績：10.9%)

③最終処分量：市民1人1日あたりの最終処分量を66g減量

H21年度：169g ⇒ H27年度目標：103g
(H27年度実績：151g)

(2)「ごみ処理基本計画策定指針」における考え方

平成25年6月に環境省より出された「ごみ処理基本計画策定指針」では、標準的な評価項目として、次のような指標が示されている。

視点	指標で測るもの	指標の名称	単位	単位方法
循環型社会 形成	廃棄物の発生	人口1人1日あたりごみ総排出量	kg/人・日	(年間収集量+年間直接搬入量+集団回収量)÷計画収集人口÷365日 (又は366日。以下同じ。)
	廃棄物の再生利用	廃棄物からの資源回収率	t/t	総資源化量÷(年間収集量+年間直接搬入量+集団回収量)
	エネルギー回収・利用	廃棄物からのエネルギー回収量	MJ/t	エネルギー回収量(正味)÷熱回収施設(可燃ごみ処理施設)における総処理量
	最終処分	廃棄物のうち最終処分される割合	t/t	最終処分量÷(年間収集量+年間直接搬入量+集団回収量)
地球温暖化 防止	温室効果ガスの排出	廃棄物処理に伴う温室効果ガスの人口1人1日あたり排出量	kg/人・日	温室効果ガス排出量(正味)÷人口÷365日
公共サービス	廃棄物処理サービス	住民満足度	—	
経済性	費用対効果	人口1人あたり年間処理経費	円/人・年	廃棄物処理に要する総費用÷計画収集人口
		資源回収に要する費用	円/t	資源化に要する総費用(正味)÷総資源化量
		エネルギー回収に要する費用	円/MJ	エネルギー回収に要する総費用(正味)÷エネルギー回収量(正味)
		最終処分減量に要する費用	円/t	最終処分減量に要する総費用÷(年間収集量+年間直接搬入量+集団回収量-最終処分量)

※網掛部は、当市が現行計画で目標値等として設定している指標

(出典：ごみ処理基本計画策定指針)

(3) 県及び県内10市における評価項目

ほぼすべての市が、「ごみ排出量」、「リサイクル率」、「最終処分量」の3つの指標を設定している。

	ごみ排出量	ごみ処理（焼却）量	リサイクル率	最終処分量
青森市	○		○	
八戸市	○		○	○
黒石市	○		○	
五所川原市	○		○	○
十和田市	○		○	
三沢市	○		○	○
むつ市	○	○	○	○
つがる市	○		○	○
平川市	○		○	
青森県	○		○	○
弘前市 (現行計画)	○		○	○

(4) 次期計画目標に関連する目標値等

	第三次循環型社会形成 推進計画（国）	第三次青森循環型社会形成 推進計画（県）案	弘前市現行計画
目標年度 (計画期間)	H32 (H26~32)	H32 (H28~32)	H27 (H23~27)
ごみ排出量	【一人一日あたり】 H12比 約25%削減 (約1,185g → 約890g)	【一人一日あたり】 H25比 約8.3%削減 (1,069g → 980g)	【一人一日あたり】 H21比 約24%削減 (1,286g → 980g)
家庭系 ごみ排出量 (資源化物を除く)	【一人一日あたり】 H12比 約25%削減 (約660g → 約500g)	【一人一日あたり】 H25比 約6.5%削減 (727g → 680g)	—
事業系 ごみ排出量 (資源化物を除く)	【総量】 H12比 約35%削減 (約1,799万t → 約1,170万t)	【一人一日あたり】 H25比 約12.3%削減 (342g → 300g)	—
循環利用率 リサイクル率	【循環利用率】 H12比 7%向上 (約10% → 17%)	【リサイクル率】 H25比 11.3%向上 (13.7% → 25.0%)	【リサイクル率】 H21比 16.1%向上 (8.9% → 25.0%)
最終処分量	【総量（産廃含む）】 H12比 7割削減	【一人一日あたり】 H25比 約35%削減 (167g → 109g)	【一人一日あたり】 H21比 約39%削減 (169g → 103g)

(5) 次期計画における目標設定の考え方について

次期計画の目標設定にあたっては、上記(1)～(4)を踏まえ、次の考え方を基本として、評価項目と目標値を設定する。

①目標設定項目

目標設定項目については、現行計画の「ごみ排出量」「リサイクル率」「最終処分量」に関する指標を継続的に選定し、新たに「ごみ排出量」に生活系と事業系の区分を設け、目標を明確化することによって、それぞれの減量化施策を加速化させる。

②目標値

目標値については、関連する他の計画の目標値等と整合を図るとともに、将来における人口の推移や各種施策効果を勘案して将来推計を行い設定する。

(6) 目標値の設定について

1. 現状のまま推移した場合

<推計方法>

ごみ排出量・・・平成27年度以降の1人1日あたりのごみ排出量を基準年である平成25年度実績と仮定して推計

リサイクル率・・・平成27年度以降のリサイクル率を平成25年度実績と仮定して推計

最終処分量・・・平成27年度以降の1人1日あたりの最終処分量を平成25年度実績と仮定して推計

※人口については、平成27年度までは実績値、平成28年度以降は推計値を適用。

○ごみ排出量推計

		H25	H27	H28	H32	H37
人口(人)		180,609	177,355	175,984	169,106	160,094
家庭系ごみ(t)		52,019	51,076	50,681	48,700	46,105
事業系ごみ(t)		34,362	33,727	33,466	32,158	30,444
計		86,381	84,803	84,147	80,858	76,549
あたり 1人 1日 (g)	家庭系ごみ	789	789	789	789	789
	事業系ごみ	521	521	521	521	521
計		1,310	1,310	1,310	1,310	1,310

○リサイクル率推計

	H25	H27	H28	H32	H37
ごみ排出量 (t)	86,381	84,803	84,147	80,858	76,549
資源化量 (t)	9,416	9,244	9,172	8,814	8,344
リサイクル率 (%)	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9

○最終処分量推計

	H25	H27	H28	H32	H37
ごみ排出量 (t)	86,381	84,803	84,147	80,858	76,549
最終処分量 (t)	9,954	9,775	9,699	9,320	8,824
1人1日あたり (g)	151	151	151	151	151

2. 主な施策の効果

当市に有効と思われる各施策の効果を算出した。

効果については、原単位（1人1日あたりのごみ排出量）削減量又はリサイクル向上率で表している。

施策項目		減量及び リサイクル効果	効果と施策 の容易性	
発生抑制	ごみの有料化 (1Lあたり1円で仮定)	(家庭系ごみ 20%削減) 130g 削減	効果大 やや困難	
	生ごみの減量化	水切りの普及啓発 (当市のモニター事業による)	(家庭系ごみ 0.71%削減) 5.6g 削減	効果小 容易
		ダンボールコンポスト、電動式 生ごみ処理機の導入促進	(家庭系ごみ 0.76%削減) 6g 削減	効果小 容易
		衣類回収の推進	(家庭系ごみ 0.25%削減) 2g 削減	効果小 容易
	環境学習・教育の推進 (三重県アンケート結果による)	(家庭系ごみ 1.9%削減) 10g 削減	効果中 容易	
	事業系	搬入手数料の適正化 (総務省アンケート結果による)	(事業系ごみ 2.9%削減) 15g 削減	効果中 やや困難
		搬入ルールの厳格化 (産業廃棄物の混入防止)	(事業系ごみ 18.2%削減) 95g 削減	効果大 困難
		事業者訪問 (排出ルールの指導)	(事業系ごみ 3.8%削減) 20g 削減	効果中 やや困難
		リサイクル可能 な古紙類対策	焼却施設での受入制限 (総務省アンケート結果による) 49g 削減	効果大 やや困難

		オフィス町内会への加入促進 (当市組成分析調査による)	(事業系ごみ 0.79%削減) 4.1 g 削減	効果小 容易
		多量排出事業者対策 (総務省アンケート結果による)	(事業系ごみ 1.8%削減) 9 g 削減	効果小 やや容易
		事業系ごみ手引きの作成・配付	(事業系ごみ 0.5%削減) 2.6 g 削減	効果小 やや容易
		優良事業者の認定制度の促進 (エコストア・エコオフィス制度の充実)	(事業系ごみ 0.5%削減) 2.6 g 削減	効果小 容易
再資源化		再生資源回収運動の促進 (全国の回収割合による)	(資源化量 44.6 g 増) リサイクル率 3.4% 向上	効果大 やや困難
		使用済小型家電リサイクル事業の推進 (青森県内で実施している市町村の実績値による)	(資源化量 2.5 g 増) リサイクル率 0.2% 向上	効果小 容易
		雑紙分別方法の普及啓発 (岡山県地域版環境学習モデル事業による)	(資源化量 2.7 g 増) リサイクル率 0.2% 向上	効果小 やや容易
		焼却灰セメント減量化の推進	(資源化量 153 g 増) リサイクル率 11.7% 向上	効果大 特に困難

3. 次期計画目標値

①目標年度(平成37年度)における目標値

県の次期計画との整合を図りつつ、ごみの減量化・リサイクルを積極的に推進するため、次期計画の目標値を下記のとおり設定する。

県と同様の目標値であるが、県の目標年度が平成32年度であるのに対し、当市の目標年度は平成37年度となっている。これは、目標値の基準となる平成25年度の数値が県に比べて大きく低迷しており、目標達成までに時間を要すると見込んでいるためである。

また、中間年度の平成32年度には、計画の進捗状況を踏まえ、目標値等の改定を行う予定としている。

基準年度(H25年度)に対し、目標年度(H37年度)において、

①ごみ排出量：市民1人1日あたりのごみ排出量を330 g 減量

H25年度：1,310 g

⇒ H37年度目標：980 g (家庭系680 g 事業系300 g)

②リサイクル率：ごみ総排出量に対するリサイクル率を14.1%向上

H25年度：10.9% ⇒ H37年度目標：25.0%

③最終処分量：市民1人1日あたりの最終処分量を42 g 減量

H25年度：151 g ⇒ H37年度目標：109 g

②中間目標（平成32年度）

より効率的なごみ減量化・リサイクルを推進するため、目標年度（平成37年度）の目標とは別に、計画期間の中間年度に目標値を下記のとおり設定する。

国が平成25年5月に策定した「第3次循環型社会形成推進基本計画」では、2R（リデュース、リユース）の取組の強化を掲げており、これを踏まえ、まずは、中間年度までの前期を本市が低迷する原因となっているごみの排出量を重点的に削減する期間とし、また、中間年度以降の後期をごみ排出量の削減に加え、リサイクル率を重点的に改善する期間と定めて取り組むものである。

基準年度（H25年度）に対し、中間年度（H32年度）において、

①ごみ排出量：市民1人1日あたりのごみ排出量を260g減量

H25年度：1,310g

⇒ H32年度目標：1,050g（家庭系700g 事業系350g）

②リサイクル率：ごみ総排出量に対するリサイクル率を4.1%向上

H25年度：10.9% ⇒ H32年度目標：15.0%

③最終処分量：市民1人1日あたりの最終処分量を21g減量

H25年度：151g ⇒ H32年度目標：130g

③目標値まとめ

項目	年度		H25年度 (基準年度)	H32年度 (中間年度)	H37年度 (目標年度)
	目標値				
1人1日あたりのごみ排出量	家庭系		789g	700g	680g
	事業系		521g	350g	300g
	合計		1,310g	1,050g	980g
	基準年度との差		-	-260g	-330g
リサイクル率	目標値		10.9%	15.0%	25.0%
	基準年度との差		-	-4.1%	-14.1%
1人1日あたりの最終処分量	目標値		151g	130g	109g
	基準年度との差		-	-21g	-42g

④目標値を達成した場合

○ごみ排出量推計

		H25	H32	H37
人口（人）		180,609	169,106	160,094
家庭系ごみ（t）		52,019	43,207	39,735
事業系ごみ（t）		34,362	21,603	17,530
計		86,381	64,810	57,265
あたり 1人 1日 (g)	家庭系ごみ	789	700	680
	事業系ごみ	521	350	300
計		1,310	1,050	980

○リサイクル率推計

	H25	H32	H37
ごみ排出量（t）	86,381	64,810	57,265
資源化量（t）	9,416	9,722	14,316
リサイクル率（%）	10.9	15.0	25.0

○最終処分量推計

	H25	H32	H37
ごみ排出量（t）	86,381	64,810	57,265
最終処分量（t）	9,954	8,024	6,369
1人1日あたり（g）	151	130	109